

食品廃棄の問題が消費者及び食品メーカーの関心を集めている。「フリーガニズム」といった新しい運動、慈善団体、企業が食品廃棄量を減らそうと動き出している。

「フリーガニズム」は、商品、特に食品が無料で入手できる場合を除いて、一般向け商品の購入を手控える行動を指す
 1)「フリーガン」という言葉は「フリー」と「ビーガン(乳製品も口にしない菜食主義者)」を組み合わせた造語である。
 2) いわゆる「フリーガン」はゴミ箱に棄てられた食品をあさる人達を指すことが多い。アメリカではこうした行為を「ダンプスターダイビング」、イギリスでは「スキッピング」と呼んでいる。

イギリスでは年間の家庭から出るゴミ1千万トンが埋立て処理されているが、このうち60%が食品廃棄物である(出所: オブザーバー紙、2006年9月)。一般の関心を集め始めている「フリーガニズム」はこうした投廃棄される食品をリサイクルすることにより無駄を減らそう、という運動である。フリーガンは、レストラン等、食品を扱う事業所のゴミ箱をあさる人達のことであるが、フリーガニズムの背後に、資源の無駄遣いになる、労働者の搾取による、あるいは動物の権利を無視した商品の購入を控えよう、といった考え方がある。詰まるところ、フリーガニズムはライフスタイルである。フリーガンはホームレスである可能性はむしろ低い。



どちらかと言えば、階層を越えて単純に、無駄な消費に対して社会的なステートメントを表現したいと思っている人達である。

No Good Food Should be Wasted



フリーガニズムの高揚は食品の無駄な消費に焦点を当てている。企業も慈善団体もこの問題に真剣に取り組み始めている。例えば、イギリスではフェアシェア(www.fareshare.org.uk)、という団体が大手百社以上の食品メーカーと協力し、「食に耐える」食品はできる限り最大限消費できるような、現実的なソリューションをメーカーに提供することで無駄な消費を最小限に押えよう、としている。これらの企業の余剰食品は冷蔵車で回収するか、フェアシェアの集配センターに直接配送され、そこで仕分けされてから必要に応じホステル、デイセンターに送られる。フェアシェアの、新しい社会的ビジネスモデルは「フェアシェアファースト」と呼ばれ、2006年7月に立ち上げられた。食品、飲料メーカーに、余剰分のすべてを環境に優しい、持続可能な方法で処分する方法を提供しよう、というのがその意図するところである。企業側では、その社会的責任を果たす、という観点から、こうしたプロジェクトを積極的にサポートしている。

